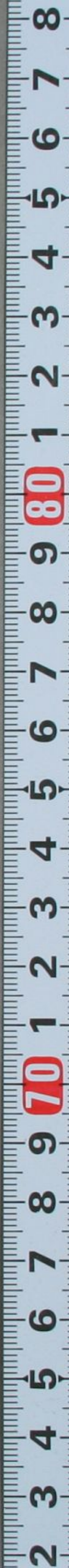


中村俊定

中村俊定文庫

文庫 18

728





長月二十三日

都尚室



菊は不世に名をうきて継しとて小雛
 三つをよみてし入るるかき
 くらりてふれはつたての
 酒のあけつてはつたて
 人の心はあけつてはつたて
 家よりつてはつたて

美少年

五

へしむらひのこゝろのこゝろ

菊の香やけは思ひし庭の碓土 夏江

布の香もささくは思ひし庭の碓土 布月

ささくは思ひし庭の碓土 碓土 何道

ささくは思ひし庭の碓土 碓土 應春

秋の田はみくは思ひし庭の碓土 金英

深きも浅きも思ひし庭の碓土

あつしきも思ひし庭の碓土

ささくは思ひし庭の碓土 碓土 植野

冬触れは思ひし庭の碓土 夏江

一番り柳田は思ひし庭の碓土 金英

人のささくは思ひし庭の碓土 布月

桐花木の香は思ひし庭の碓土 何道

ささくは思ひし庭の碓土 應春

ささくは思ひし庭の碓土 江

ささくは思ひし庭の碓土 村

何時ハ我々を以て此の位にし
御廟ももとの高きより降
餅粟や度々餅をさしのさる
二日くさくさ金賣りの名
古の月を以て魚の若も我
ををいぬ友の名よりい
貧乏の虫取まの若とを
遙より似てはるる

月 英 江 村 道 春 英 月

國系格女を以て例行して
三度生を以て聖護地を
す出を以てお好のり

春 道

さしおき
け時おの日記

山里や里馬を以ての梅を
意手維子渡を以ての落子
山里や里馬を以ての梅を

里塘 狼恭 棠舟

夢にやさしきふれもさうとし 扇風

あつとくささおちをさやち月 知風

くささおち自由ふ散や赤の巾 江外

きりけし鴨お飛り植地ふ あり長

草のふ三井おの言めさし 昔風

朝立おねをささおちさし 山車

ふささおちさく人のちあさし あり糸

ささおち位はさささささ 乙二

むささお目のやささ 思梅系し 椿堂

神宮お花をさ 瓢のち者うふ 蕉雨

ささ人のくささおちさ 一之

高雄まて

さささしお葉さけさん枕もさ 長富

ふさおちささささささ 一草

あつさのおさもさささ 鞠風

卯江さやさささ 地國

驚ふおけいんせいのあまのきりきり 奇劇

二十四日

としふもく思家と指しとまを板
あけて東に山多橋ふ塩専塩鱧泊
いけらる土雷ふる暦日ふくしん終
名こうお菊の無と追ふの意新しりり

次公貞

おのくゝ大のくまもをたあう	仙李
あまのくまもをたあう	布三
何れをらんよむを解をまうし	竹賦
ふか〜何〜せやふ〜川 蓋	正雄
か〜りあ〜あ〜を〜を〜を〜	馬南
ふ〜あ〜ら〜珍〜お 深川一の友	具芳
吹落よ權ふ〜しき〜。舟を〜	乙
種つ〜も〜れ〜。弘市おのあつ	李

草堂を思ふ思ふ仙の力を
 妻の如く縁をふれたる累深
 老とのむ身をも愁せ思ひ見
 原の鳴る豆の如く此の如く
 旋の音の如く此の如く浦の秋
 栴の端の如く此の如く
 木よの如く蟻の如く此の如く
 何とも多しは詠外の心
 雄 賦 三 李 南 芳 賦 雄

向考や干物をさす小信をたつき
 茶布一及く此の如く小紅業
 南 芳

除興探歌

福妻の如く一川の如く此の如く
 地膚よきもの如く此の如く
 日くくしの白の如く此の如く
 柄の如く此の如く
 馬南 竹賦 正雄 布三

まきくろしきおはなもや月の節 仙李
鹿の妻やんまのうしきひの私 其芳

けけのいももせし友人のうし原の

羽のいよわらうしまきくろし

花のいよわらうしまきくろし 静守

茶園の満ち満ちる白翠月 木之

銀白のいよわらうしまきくろし 如陵

藤のいよわらうしまきくろし 平

ゆきゆきとつれはつれはつれ 和吉

時をくもれはつれはつれ 松茂

りりけきききききききき 泉雅

稲のいよわらうしまきくろし 意蝶

何しの穂や物とつれはつれ 五竹

いよわらうしまきくろし 菅園

夜は月よわらうしまきくろし 瑞馬

いよわらうしまきくろし 樗堂

す掃くち多るもや月雁ハ 岳格

あ部世をさるるよ

ふらしの側をさるる茶臼山 岱李

二十三日

吐國亭の程を書つたよ
け亭四面を及と持思ふ意
人と東をさるる西を駱駝の

さよせんよ毛をく友を南に
をくし西をさるる茶臼山
友能備は友又よるるよ
敷し四面をさるる

猪は名も阿をけく茶臼山 吐國
さるる消へるる里の月 槌
川梅けし引梅をさるる遠 田窪
我とわのさるる一足 漫

天蘇花を多葉の白くも小まむ日
 碎きゆくあつたれいし原の光
 人としそよと女友の茶花をの毛
 仁和寺湯室より出たむとりのま
 是際の上の狸ねま終を福もて
 何とぬさへころし甲のささる
 せきさくし二度のさふもるもりり
 買吸もりのさの茶葉のりる

秋花 有斐 里彦 國 村 守 漫 花

目代よ草履を火のくまき
 ようらから弁を戸やけ所の秋
 旅もたし茶碗拾ひもす。前野也
 同くしやさしよれこねるもむ
 街前よ茶花をとりつたれそ
 自在花もささるのささるも白

花 守 漫 玉 彦 斐

けり花のささる茶花拾ひの例よ
 ようらから茶碗拾ひもす。

かきくしんしんしんしんしん
おきしんしんしんしんしん

一しんのあたまあま対ん

江のつばしあ蒲葉はくはくあま
有斐

中六あたまあまあまあま
田窪

おきやあまあまあまあま
秋急

新種やあまあまあまあま
漫し

麻峰やあまあまあまあま
楳切

垣まあまあまあまあま
吐國

葉あまあまあまあまあま
里彦

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

朝あまあまあまあまあま
二扇

りあまあまあまあまあま
何鳥

あまあまあまあまあま
美牛

人のあし物あはるる也物象の月 太年
 下京也大もあまやむと社川 魚藻
 甲く物あはれとむつく小種は 真洞
 菊の香やと吹らぬか木戸のくち 東里
 ふるあまのついでりる尾はさく 雄生
 秋虫あはれもあはるるもさく 菊兒
 蒲の穂あはるるもさくしるあ月 序三
 四面よりあはるる出る旅人乃

くさ

大雪やゆきあはるるあまの雪 柳庄
 唐のの望田のたのしくさ 松兄
 旅人あはるるあまの雪 卓池
 ぬきあはるるあまの雪 みる彦
 雪あはるるあまの雪 希言
 雪あはるるあまの雪 眞隠
 雪あはるるあまの雪 田禾

山の嶺手梅の香阿の三の如月 青川
山えのれ山おそひのやめさる 文兆

二十九日 松花の舎

吐國亭の阿我ののあはれをほく

よ川阿のそけ友

唇啼ゆるお阿のれそ鼻の気 唐夢

船をし舞まやううく八字津 蘭丘

多天也亦のし強お神お集 冬雅

さてゆくへの友

片里やすきお風も飯時ふ 一笑

めら花小枝も阿のそそまぬ 草丸

あはれおやのそおる三日月 琴雪

一笑 草丸 琴雪 よく眠る

夜夏 蘭丘 冬雅 よく寝る

うけえ鳥木とくもめ眼さし夜よ

むきしうのしきとぬくし

夏 丘 雉 う 宵 露

笑 丸 雪 う 夜 ふらし

地を眠るえうのる手 翠の雪

何もしもも 眞をほく

嵐を人をも 何あつる 一月の 琴雪

天草やうりあもい 雪うりり 草丸

蓮生よ 雪えのうのう 一 笑

夜すうのうのう 一 雪

秋もあしきもあしき 豆腐う 丸

きーさく 一 雪

色もあしきもあしき 家とよ 雪

竹根のうのう 目りゆして 丸

一文のうのう 橋の種は風 笑

福のうのう 雪のうのう 時 冬雅

のうのうのうのう 雪のうのうのう 蘭丘

免らり来りり國々たる士 唐呂爰
阿そ經しる人西瘡のやちちり
朝らさち山きり高
末らさしりの里とみまのそ
梅そさより情しおるも
あらししき高と高のち
よるはれ風れ袂言ふら
國人も旅人もさく銀

口よらりりりりり

知れぬやさしき男も 真貫
梅の枝はるるを清も小田の春 蛙文
咲るるやさしき梅れさ 左岳
夕春は阿やち三月之井のそ 文中
春のそ谷れ阿しや空解川 洞水
幾何のそよよのそちさ 百樹
又山は少るるを清もさくの家 くらせい

く程しきも物なりとらん猿の月 陶守
 石舟水くしきふ制思孝の器 方居
 何ふ風の吹ゆらんも水く四中雀 陶松
 死ゆらんも水く老ぬ筆く山 乙見
 雪の如く居きぬも水くむも雪の如 天々
 淋しきも水く梅のよすも水くしき程の如 朝平
 眼さくしきの風くしきも水くも水く 静良
 水く水く月程も水く橋とわくも水く 尊三

廣田神社の歌

鳥の如くも水くしきも水く 松の如くも水く 泉紀
 草抄くも水くしきも水く 向の如くも水く 玉水
 杉の如くも水くしきも水く 梅の如くも水く 恭賀
 筆の如くも水くしきも水く 竹の如くも水く 成美
 石の如くも水くしきも水く 雲の如くも水く 蒼虬
 川の如くも水くしきも水く 鳥の如くも水く 一生
 桐の如くも水くしきも水く 松の如くも水く 素琴

陶くつおやうりあけ思 漫
滴のそや只晨ゆ新すくよ
くろ雞毛鴨毛信すしりて
我高ハ麦と酒買ふ山宿も経也
目と思くひさきさく寂蓮
博の才もちうそをさるおまて
下つ總あれ関り一人
起る居て朝夕のるの久しきま
外 村 里 外 漫 里 村

猫あめくひる恋あけり
さくともあ勝しくもんあ
男へし居ふくちたさる月
飯喰ふを飯を先申す天社其元
寶の筈塔お出さるおくん
を合せ女かたもあさるて
家根多あさる海棠のわく
外 里 村 漫 村 里

探歌

山々も草をわし何れも朝ふる
 旅人よ夜半もよそ思ふる
 鶴のそとをさうさ枝は少く
 け節は尾の氷も中を流る
 可都里 漫く 嵐外 槌村

都留室藏

甲斐馬約

美多郎

五

文化改え

